



「共通テスト」 の分析



2021年2月27日

島根県立松江北高等学校・勝田ヶ丘志学館

(編) 八幡 成人

1月16日(土)に行われた「大学入学共通テスト」(リーディング・リスニング)第一日程において、出題で気になった点をまとめてみた。「試行テスト」と比べて形式上の変化はあったが、求められている力は同じである。「概要・要点を把握する力」、「必要な情報を読み取る力」、「複数の情報を整理する力」など、知識や技能を実際の場面で活用する力が求められている。生徒たちに、早い時期にこのことを伝える必要がある。設問別の正答率をじっくりと読み込むことでいろいろなことが見えてくる。

要確認

(1)「問題作成方針」を読み返してみたい

今回の「共通テスト」の問題をじっくりと読んでみると、大学入試センターが公表した「問題作成方針」に完全に準拠していることが分かります。今回の問題を批判する人たちは、こちらを批判すべきです。

- 実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。

英文の内容を読み取り(複数箇所もあり)、それを使って情報を処理し、運用するという二段階の作業を必要とする問題が増加した。

令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針(2019年6月7日)

【英語】

- 高等学校学習指導要領では、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。
- 「リーディング」「リスニング」とともに、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)を参考に、各CEFRレベルにふさわしいテキスト作成と設問設定を行うことで、A1 から B1 レベルに相当する問題を作成する。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 「リーディング」については、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。
- 「リスニング」については、生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について、概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問うことをねらいとする。音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。
- 読み上げ回数については、英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ、問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として、1 回読みを含める。十分な読み上げ時間を確保し、重要な情報は形を変えて複数回言及するなど、自然なコミュニケーションに近い英語の問題を含めて検討する。全ての問題を1 回読みにする可能性についても今後検証しつつ、当面は1 回読みと 2 回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。
- グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す4技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ、「リーディング」と「リスニング」の配点を均等とする。ただし、各大学の入学者選抜において、具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては、4技能を総合的に評価するよう努めるという「大学入学共通テスト実施方針」(平成 29 年7月)を踏まえた各大学の判断となる。

令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト英語におけるイギリス英語の使用について(2019年8月23日)

共通テストでは現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。

(補足説明)

- 高等学校学習指導要領に示された、国際的に広く日常的なコミュニケーションの手段として通用している「現代の標準的な英語」には語彙、綴り、発音、文法などに多様性があることに気付かせる指導を踏まえ、出題の場面や内容にふさわしい英語表記とするため、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定に応じてイギリス英語を使用することがある。

(2) 圧倒的な分量増加！ 《注意》



「リーディング」で約1,200語(4,300→5,500語)、「リスニング」でも300語以上の語数増加が見られる。圧倒的な分量を出題することで、語彙力・速読力のない生徒は最後まで解き切ることができない。今回の出題で生徒の一番のネックになるのがこの点だ。本文を詰まったり、戻ったりしながら読んでいては時間が足りない。「時間が足りない」「予想と違い、頭が真っ白になった」「試行調査と全然違う」「時間内ギリギリだった」「何とか最後までいった」という声が多数聞かれたことだろう。早い時期から、一定のスピードで左から右へ読み進められるような練習(150 wpm が望ましい)をしておく必要がある。分量は多いものの、英文自体は平易なものであった。英文全体の要旨や論理展開を把握する速読力と、複数の情報を整理して回答を導く思考力の養成が求められる。

大問構成 英語(リーディング)



★多種多様な文章や資料に慣れておくことが重要！

大問	配点	出題内容	語数 (冒頭文を含む)
第1問	10点	A 「忘れ物」についての友人とのショートメッセージのやりとりを読んで、必要な情報を読み取る力や情報をもとに推測する問題が出題された。	約160語
		B 「ミュージシャンのファンクラブサイト」を見て、必要な情報を読み取る問題が出題された。	約270語
第2問	20点	A 「バンドコンテストの評価表と評価に関する英文」を読んで、概要や要点をとらえたり、情報を意見と事実とに整理したりする問題が出題された。イギリス設定。	約250語
		B 「学校の規則についての掲示板への投稿と返信」を読んで、概要や要点をとらえたり、情報を事実と意見とに整理したりする問題が出題された。イギリス設定。	約300語
第3問	15点	A 「空港からホテルへの交通手段に関するウェブサイトへの投稿」を読んで、図を参考にしながら、概要を把握する問題が出題された。イギリス設定。	約270語
		B 「ボランティア募集の学校のニュースレター」を読んで、概要を把握する問題が出題された。イギリス設定。	約330語
第4問	16点	「姉妹校の生徒をもてなすスケジュールについてのメールのやりとりと図表」を読んで、複数の情報を整理して必要な情報をつかんだり、計画を立てたりする問題が出題された。	約570語
第5問	15点	「牛と飼い主の女性についてのニュース記事」を読んで、「プレゼンテーションスライド」を完成させる形で概要を把握する問題が出題された。	約760語 (スライド含む)
第6問	24点	A 「アイスホッケーの安全性についての記事」を読んで、「プレゼンテーションポスター」を完成させる形で概要や要点を把握する問題が出題された。	約760語 (ポスター含む)
		B 「甘味料に関する英文」を読んで、概要や要点を把握する問題が出題された。	約550語

(出典:ラーンズ)

かなりの量の文章を正確に速く読んで、情報を処理する検索力と読解力が要求される。思考力、判断力、表現力をより重視し、さまざまな資料(図・表・グラフ)などから情報を読み解いて課題を探り、話し合っ解決方法を見出す「主体的・対話的で深い学び」の実践を求めている。

大問構成 英語(リスニング)



※2回読まれる第1問、第2問と、1回読みでも比較的聞き取りやすい第3問までで、
100点満点中59点ある。リスニングの苦手な人はここでしっかり得点を取ることを
指導したい。メモの取り方を指導する必要がある(自分独自の記号も)。**重要**

大問	配点	出題内容	音声回数	音声速度
第1問	25点	A 短文・英文選択 10～15語程度の英語を聞いて、内容に合う英文を選ぶ問題。	2回	約180wpm
		B 短文・イラスト選択 10～15語程度の英語を聞いて、内容に合うイラストを選ぶ問題。	2回	約170wpm
第2問	16点	短い会話・イラスト選択 30語程度の対話と問いを聞いて、問いに対するイラストを選ぶ問題。	2回	約170wpm
第3問	18点	短会話・Q&A選択 50語程度の対話を聞いて、問いに対する答えを選ぶ問題。	1回	約150wpm
第4問	12点	A モノローグ・図表 70～90語程度の話を聞いて、 概要や要点を聞き取り 空所にあてはまるものを選ぶ問題。	1回	約130wpm
		B モノローグ・条件選択 40語程度の4人の話を聞いて、 条件に合うもの を選ぶ問題。	1回	約150wpm
第5問	15点	講義・ワークシート完成 「幸福観」についての280語＋40語程度の講義を聞き、空所にあてはまるものを選んだり、内容に一致するものを選んだりする問題。 ワークシートにメモを取る場面設定 だった。	1回	約110wpm
第6問	14点	A 対話文・Q&A選択 「フランス留学」についての200語程度の対話を聞いて、問いに対する答えを選ぶ問題。 発話の主旨 が問われた。	1回	約150wpm
		B 会話文(話者4人)・内容把握 「レシートの電子化」についての200語程度の4人の会話を聞き、4人の意見に関する質問についての答えを選ぶ問題。 話者の立場 が問われた。	1回	約130wpm

(出典:ラーンズ)

(3) 日常生活場面での出題多し！

～より実践的なコミュニケーションの場面を想定～

<リーディング>において、第1問A・携帯電話のメール、第1問Bファンクラブのオフィシャルサイト、第2問A・大会採点表、第2問B・オンラインフォーラム、第3問A・経路図、第3問B・学校ニュースレター、第4問・時刻表、観客グラフ、行程表、第5問・プレゼンのスライド、第6問A・プレゼンのポスター、第6問B・甘味料甘さ表、といったように日常生活場面で出くわす材料がふんだんに登場した(実際のコミュニケーション場面を意識したもの)。「試行テスト」以上に資料(図・表・グラフ)の多さが目立った。「実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する」という問題作成方針に基づいた出題である。

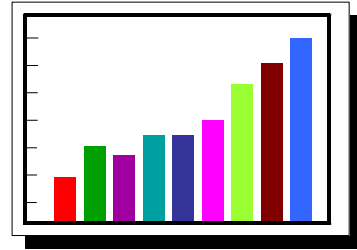
<リスニング>においても、日常生活のトピックがふんだんに出題された。さらには、グラフの読み取り、意見のとりまとめ、講義内容の把握、内容的にやや抽象度の高い社会的な話題(《難》第5問「デンマーク人の幸福観」、複雑な4人の会話(《超難》第6問B「レシートの電子化」)も出題された。

(4) 図・ワークシート・グラフからの情報整理

視覚情報の読み取り

<リーディング>

- ・第1問Bのファンクラブサイト
- ・第2問Aのバンド大会採点表
- ・第3問Aの経路図
- ・第4問の時刻表&観客数グラフ&行程表
- ・第5問のプレゼンのスライド ※この第5問は難易度が相当高く読みづらい文章
- ・第6問Aのプレゼンのポスター
- ・第6問Bの甘味料の甘さ表 ※専門用語が多いため読みづらい文章



⑨本文中の人工甘味料の発がん性や妊娠、発達への悪影響に関しては、一般社団法人日本食品添加物協会や一部の専門家より、科学的根拠が薄いとして疑義が表明されている。

<リスニング>

- 第4問Aの学校外での生徒活動グラフ
- 第4問AのDVD割引率表
- 第4問Bのミュージカル表
- 第5問の講義ワークシート&仕事・生活バランスグラフ
- 第6問のレシートに関するグラフ

さまざまな形式の
資料に慣れておこう!

「思考力」「判断力」「表現力」を問う。これらは全て、英文中に出てくる情報を、資料と重ね合わせ関連づけながら読んで整理をすることが求められている。予想以上にこの傾向の問題が多かった。「自分が何を問われているのか」「資料からどの情報を見なければいけないか」を正確に把握する。「様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする」という大学入試センターの問題作成方針に沿った出題。表やプレゼンのスライドを完成させるなど、間接的に「表現力」も問われた。

(5) 「事実」と「意見」の区別を求めている問題

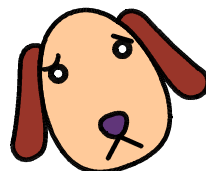
「共通テスト」の新しい傾向の問題、「事実」と「意見」を区別するという問題の真意は一体何か？インターネット上では記事と読者が書き込んだコメントが混在している。このように「事実」と「意見」が混在するネット情報を正しく読み解いて欲しい、という出題者の意図が見える。情報を取得する際には、「何が事実で何が事実ではないか」ということが大切。ここを捉えた問題ということ。賛成意見と反対意見を整理する(リスニング、試行テスト)問題は、自分の意見に固執して、自分と異なる主張をする人の意見は軽視するという風潮が見える。1つのテーマに対して、賛成意見と反対意見の両方の根拠をじっくりと考えて見ようという姿勢は重要である、という意味表示だと受け止めている。ある情報が「主観的」か「客観的」かを判断するためには、自分が読む英文がどのような情報を伝達しているかを常に意識する「思考力・判断力」が重要。

（６）「推測」を求めている問題 《新傾向問題》

本文に与えられた情報を正確に把握した後、その情報に基づいてその「先」を「推測する」ことを求めている問題が、予想以上に多かった。これは大学入試センターの出題の方針「推測力」に沿った出題。「あなたならどうする？」という形で問いかけているのも特徴的。「インプット」から「アウトプット」を意識した出題でもある。現場の今後の授業の組み立てに影響を与える出題であった。

<リーディング>

- 第１問A問２ メッセージに対する返信内容を推測する問題
- 第２問A問５ コンテストの順位決定
- 第２問B問５ どのような研究が新方針反対の助けになると思うかを推測する問題
- 第３問A問２ 最速の交通手段は？(計算問題)
- 第３問B問３ サラからのメッセージを読んだ後取るべき行動を推測する問題
- 第４問問２ 行程表の完成
- 第４問問５ 第3案の内容を推測する問題
- 第５問問２ 登場人物の整理



<リスニング>

- 第２問問１０ 「汚れるかもしれない」から「軍手」を、「天気がいい」から「帽子」を推測させる
- 第３問問１３ 最初に片づけるものは？
- 第６問問３５ 選択内容

（７）情報を並べ替えさせる問題 《新傾向問題》

- (1) 出来事を時系列で並べ替える問題 — 第３問B問１ 第４問問２ 第５問問３
- (2) 順位を並べ替える問題 — 第２問A問５ 第６問B問２

「試行テスト」では「感情の推移」と「出来事」を時系列に並べる問題が出題されていたが、「共通テスト」では２問とも「出来事の並べ替え」となった。第５問では選択肢が５個あるのに、並べるのは４個と、１個のダミーが加えられた。そのダミーも全く関係ない内容ではなく、本文中に登場しており、図中の「有名になる前」という条件を見落とすとひっかかると、という手の込んだダミーとなっていた。ここをうっかり５個選んでズラしてしまい、影響を受けた人も多かった。この第５問は《難》。

設問だけでなく、選択肢まで「先読み」してから、本文を読む始めるのが効率的。

(8) 「試行テスト」より配点・設問数の若干の変更

<リーディング>において

第3問 2点→3点

第5問 5点→3点 設問数1問増加

<リスニング>

第1問 AとBの配点が入れ替わり、Aが各4点となった

第2問 3点から各4点に

第3問 設問数4→6に



平均点(50点を想定)を調整するための大学入試センターの「戦略」であろう。

(9) イギリス英語の出題 《新傾向》



リーディング・リスニングともに、大学入試センターの予告通り「イギリス英語」が出題された。<リーディング>では、「イギリス英語」特有の語彙(posted, Head Student, post, Head Teacher, underground, brilliant, public transport)や綴り(Mr, Ms, realise, Centre, centre, organise, learnt)や文法(suggest that ~ should V, 15 March 2021)が英文中に見られた。第2日程でも同様に、flavoured, programme, film, 15 September 2020, Posted, favouriteが出題された。

<リスニング>では第3問 問15、問17、第4問B、第6問Bにイギリス人話者、英語を母語としない話者が登場している。

今回のものは「イギリス英語」を意識していなくても、解答には全く影響はなかった。「アメリカ英語」がきっちり読めている人にとっては、何も不自由はない。「イギリス英語」のテキストを読む際にちょっと触れておいてやる程度の対策で十分。

【参考】 発音に関しては、YouGlish (<https://youglish.com/>) を利用するとよい。これは英語の発音をアメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語に分けて、英語の発音が確認できるサイトで、キーワードを入力すると、そのキーワードを含んだ YouTube の動画の検索が可能になる。スクリプトも画面上に出るので学習の参考になる。これ、オススメ!!

【付記】 ちなみに、昨年出版された『直前演習 2021 共通テスト 英語(リーディング)』(ランズ)の別冊付録「攻略BOOK」の最後のページには、「コラム アメリカ英語とイギリス英語」が掲載されていた。そこにはアメリカ英語との「語彙の違い」「綴り(スペリング)の違い」「発音の違い」「文法の違い」として、主なポイントが分かりやすく簡潔に解説してある。この中から、underground, centre, realise が出題されていた。見事的中です!!

(10) 基本的な文法も読解に必須！

<リスニング>において、基本的な文法事項・語彙を押さえておかないと、英文を正しく読解することができない、という出題が目についた。

第1問 Question No.5 Almost everyone at the bus stop is wearing a hat.の絵を選ぶ問題は **almost** という基本語が「もうちょっとで～になる」という意味であることを知らないと正しく理解できない。このことは2019年「センター試験」、2回にわたる「試行テスト」で計4回も出題されており、私が何度も注意喚起をしてきた(「チーム八ちゃん」2019年11月7日付け)。

的中!!

第2問 Question No.11 Down there, next to the lockers across from the restrooms. オーラルコミュニケーションの道案内の授業などで、生徒が必ずつまづく **across from** ～(～の反対側に)という表現を出題。間違え易い問題。パツと聞いて分かりづらい表現(読んでも分からないものは聞いても分からない)。

<リーディング>においても、第3問B、第5問で出来事の描写に過去形と過去完了形が多数出てくる。時間関係を読み取るのに「過去完了」を正しく理解しておかねばならない。

その他、関係代名詞(制限用法・非制限用法)、関係副詞、使役動詞、現在完了形、現在完了進行形、比較、など重要な文法事項が頻繁に現れていた。基本的な文法は知っていて、それを用いた文章は読めて当然、というスタンスの出題。ここに挙げた基本的な文法事項はきちんと押さえておきたい。単独での文法問題の出題はないが、決して文法の重要性が下がったわけではないことに注意したい。



(11) 「できた！」と思わせて…

<リスニング>では「分かった！できた！」と思って答えてしまうと、最後の最後に「どんでん返し」が述べられており、引っかかるという出題が見られた。最後の最後まで注意してよく聞くという習慣が求められる。日常のコミュニケーションを意識した出題。

第3問 Question No.12 最後にどんでん返し

第4問 Question No.22-25 最後にもう1つの条件が追加



<リーディング>の第3問A問2も最速のルートを計算で求める問題だが、図の所要時間だけで計算してしまうとひっかかる。本文中に追加の条件が潜んでいる。

(12)「単語力」の養成が急務！

「共通テスト」では、5,000語以上の英文を限られた時間内(80分)に素早く正確に概要を把握したり、必要な情報を読み取ることが求められる。その際に「言い換え」も多用される。そのためにもますます「単語力」が重要になってくる。serious effects that last a lifetime が Long-term と言い換えられたり、indications of concussion が signs of a concussion、unable to see clearly が unclear vision と言い換えられたりしている。「同義語」や「反意語」を意識しながら、日頃から単語学習をする必要があるだろう。言い換えの学習には、英英辞典(*Longman Dictionary of Contemporary English* がオススメ)を日頃から使うのも効果的だ。高校生向けの英字新聞(*Asahi Weekly* や *The Japan Times Alpha*)もオススメ。

今回、**concussion**(脳震盪)という馴染みのない難しい単語が出題されているが、第3段落最初に分かりやすい説明が添えられているので心配はない。A **concussion** is an injury to the brain that affects the way it functions; it is caused by either direct or indirect impact to the head, face, neck or elsewhere and can sometimes cause temporary loss of consciousness. このように難しい単語には必ず説明・文脈がつく。これは未知語推測の問題の重要なヒントとなる。

CUSS は「打つ、激しく揺さぶる」の意味。**con-**は「一緒に」だから「一緒に激しく揺さぶる」より「脳震盪」の意味となる。**discussion** は「離して(**dis-**) + 打ち砕く」より「一つ一つ詳しく調べる→議論する」の意味となった。同様に、**percussion** は「十分に(**per-**) + 打つ」より「打楽器」となる。このように要素に分解してみると、単語の意味がよく分かる。速く読むために単語力が今まで以上に必要となる「共通テスト」においては、単語の覚え方にも工夫(例えば、「音読の利用」「文脈の利用」「語源の活用」など)が必要となってくる。

覚え方にも工夫を！



(13) 問題別解法に慣れておく

※ TOEIC の要素は増えたが、だからといって TOEIC の問題集を解く必要はない。

- 英問英答形式 — 「原文典拠の法則」「同一内容異表現の法則」 設問の「先読み」&「キーワード」により「何が問われているか」を意識して本文を読むことが素早く正確に答えを見つけるカギ
- 「事実」か「意見」かを問う問題 — 「客観的」か「主観的」か？
- 時系列に並べる問題 — 「選択肢」も「先読み」してから読み始める
- 要約・タイトルを答える問題 — 各パラグラフの要点を「一言メモ」
- 内容一致問題(複数解答) — 「選択肢」の「先読み」が有効

(14) 正答率が低くなるであろう問題

今回の「共通テスト」のリーディング・リスニングにおいて、生徒が苦勞した正答率が低くなるであろう問題を挙げておく。設問分析をしてみると、いろいろと面白いことが分かってきて、今後の指針となるだろう。なぜこれらは難しかったのか？

【リーディング】

第1問B	問1	
第3問A	問2	
第3問B	問1	
第5問	問1	問4
第6問A	問3	
第6問B	問1	問3



【リスニング】

第1問A	問3	問4	
第3問	問13	問15	問17
第4問A	問22		
第4問B	問26		
第5問	問28～29	問30～31	
第6問A	問34	問35	
第6問B	問36《超難》	問37	

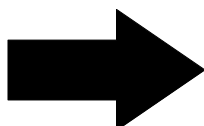
ここから何を
読み取るか？



(15) まとめ

《センター試験》

英文を理解する
ことを主目的



《共通テスト》

英文を理解したうえで
付随する資料・図表を
活用して情報整理

【今までは】

【これからは】

- 「共通テスト」（リーディング）に対する「戦略」を一言でまとめると

単語を声に出しながらたくさん覚えて、多くの英文を読んで読むスピードを上げる。

※単語の覚え方には工夫が必要。普段からアンテナを広げておき、興味のあることは調べて知識教養を深めておく。

- 問題の「解き方」に関しては、問題文（時には選択肢も）を「先読み」が必須。「何が問われているか？」を意識して本文を読むことが、素早く正確に答えを見つけるカギとなる。

- ①まずは設問に目を通して「何が問われているか？」を大まかに確認する。
②問題文全体を読む。解答の根拠になりそうな情報はこの時点でマークしながら拾っておく
③設問と問題文を照らし合わせながら、設問を解いていく。
「原文典拠の法則」「同一内容異表現の法則」

重要

※どの問題にどの程度の時間をかけるのか（目標時間）を意識して解くこと。



【参考】

非常にいい英語の文章は論理構造がしっかりしているが、今回出た長文はそうとは言えず、論理的な思考力は測れない。この問題内容を素早く処理するテクニックがあることと英語力があることは別問題。

英語のコミュニケーションで一番大事なのは外国の人に自分の考えを理解してもらい、説得する能力を育てること。英文を深く読める力がなければまともな話はできない。こうした問題構成が中心になれば高校生の英語の力が落ちるのではないかと危惧している。

—鳥飼玖美子（立教大学名誉教授）

ただ、試験そのもののクオリティーについて、文科省や大学入試センターはどうお考えなのだろう。

大問1からメールやウェブサイトの読み取りなどの題材が続き、それが第5問まで続く。これでは生徒たちの読む力を測ることなどできない。メールだのウェブサイトだのオンラインだの情報を与えて情報を読み取る問題が多すぎる。これが「使える英語」や「実践的英語」だと勘違いされるのであれば、批判せざるを得ない。

生徒たちはメールを読みみにアカデミアの世界に行くわけではないのだ。また、学校教育はそういった軽いコンテンツに答えるためのものではない。メールもあっていい。ウェブサイトの読み取りもあっていい。軽いサービス問題としては。しかし、読む力を測る試験にするなら、かつちりした小説や評論を出題すべきであり、それをもとにして思考させる問題を作成すべきである。情報検索能力だけを求める今回の作問クオリティーは、残念だけれどもあまり高くないと言わざるを得ない。

—木村達哉（灘高校・中学校教諭）